

はじめに

前回、フランス城郭シリーズ 5 で、パリのシャルル 5 世の市壁から約 200 年後にルイ 13 世の城壁拡大した様子を投稿した。しかし、投稿した直後に 30 回生の西内一氏から、1789 年のフランス革命勃発時に民衆が襲撃して破壊し、君主国から共和国に変わる重要なシンボルとなったバスチーユの牢獄の基礎部の石材が別の所に移して保管されていた、と写真と一緒にメールでご教示いただいた。筆者も約 20 年ほど前に仕事上のパートナーだったフランス人から、「約 100 年ほど前にパリの地下鉄工事現場でバスチーユ要塞の地中部分が発見され、どこかに保管している」と聞いたことを思い出し、web で検索すると沢山の事が分かってきたので、シャルル 5 世の城壁追加版として追加投稿する。

1. バスチーユ牢獄の基礎石材

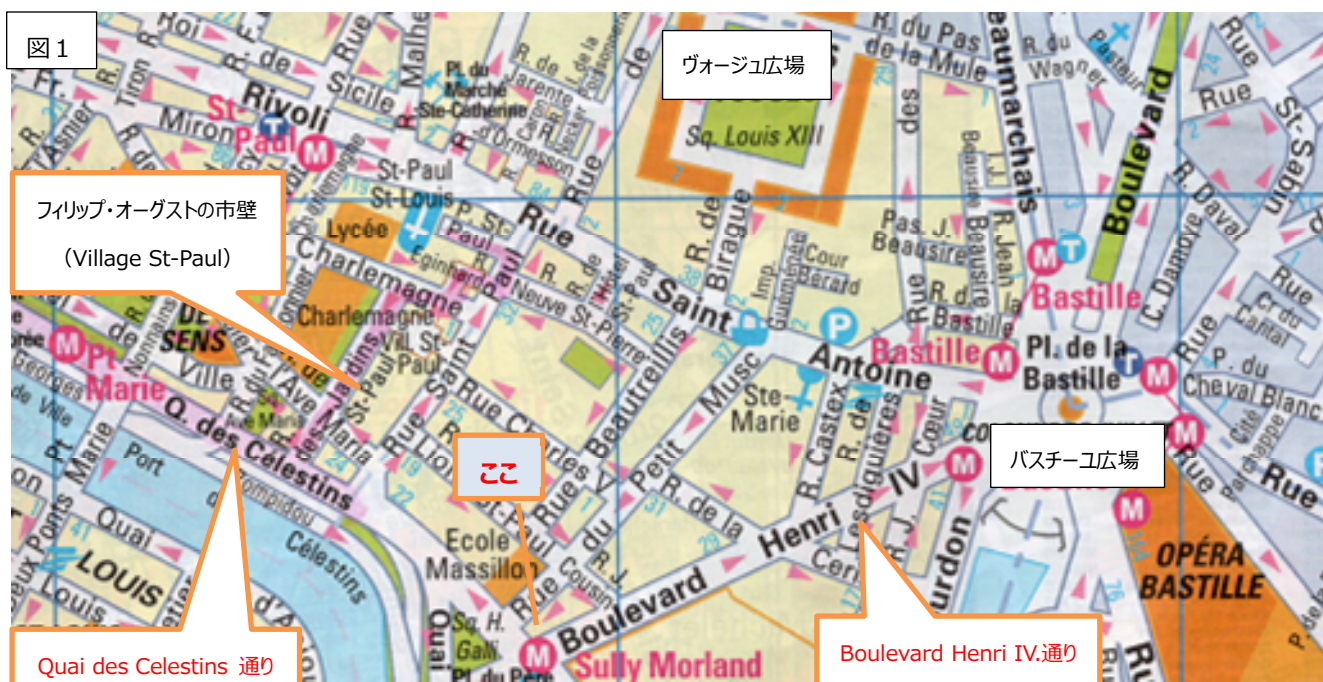
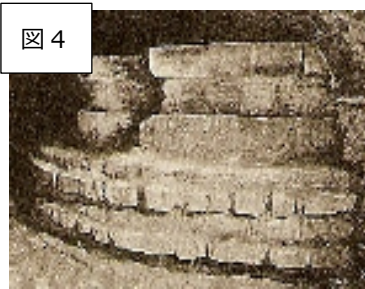


図 1 は、フランスの城郭シリーズで登場したパリのマレ地区の一部である。西内氏から送られてきたバスチーユ牢獄塔の基礎部の写真を探したところ、次の記事が見つかった。「1899 年に地下鉄の工事現場でバスチーユ牢獄が民衆に襲撃され破壊されたが、その基礎部が発見された（図 2）。現在は、Quai des Celestins 通りと Boulevard Henri IV 通りの交差点（多分筆者がここと記入した付近）に保管しており、いつでも自由に見学できる。



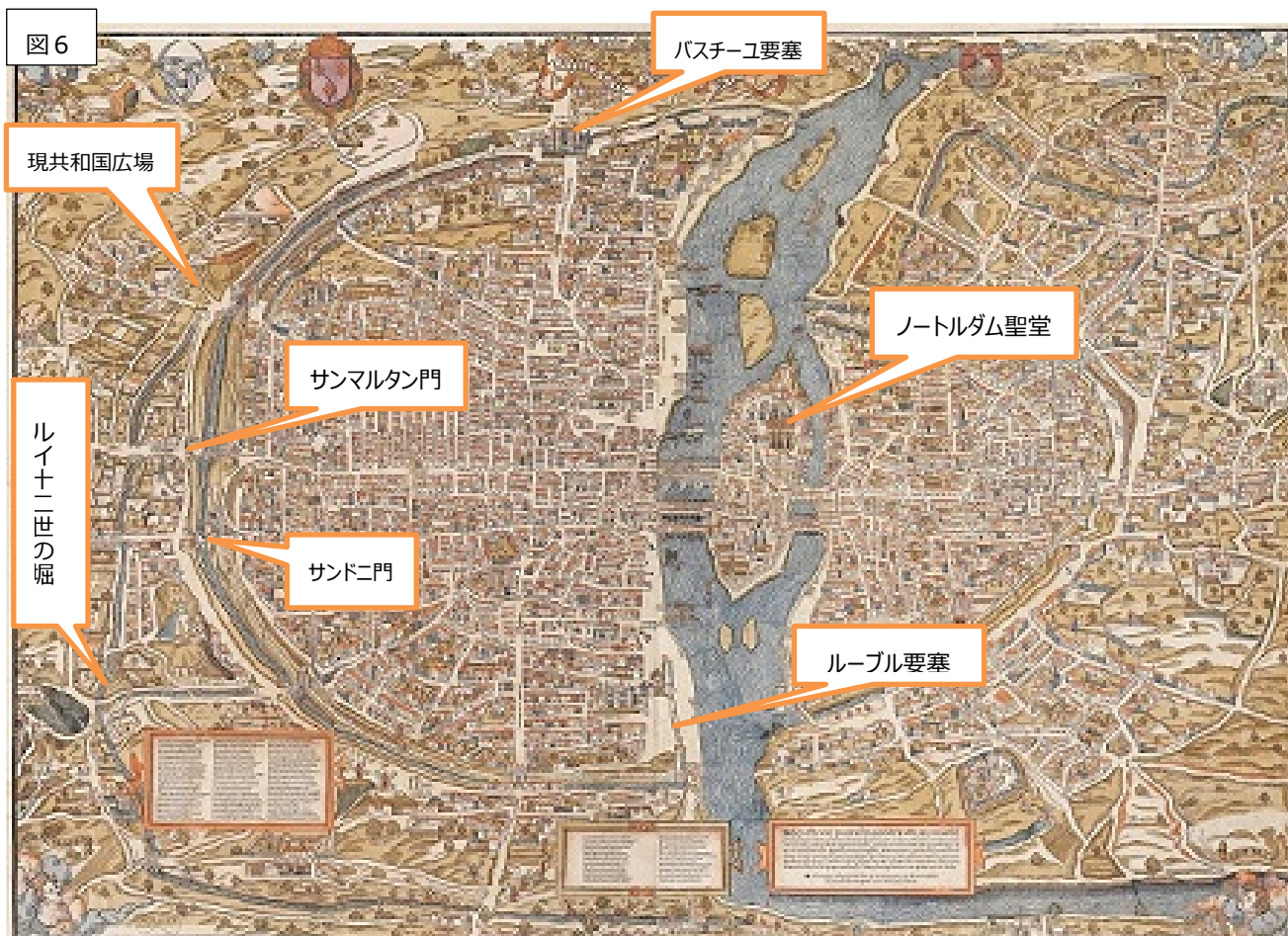
Boulevard Henri IV 通りに保管中



西内一氏が撮影した写真図 5 は図 3 と同じ遺跡で、現在は図 1 に示したアンリ 4 世大通り(Boulevard Henri IV)とセレスティン海岸通り(Quai des Celestins)の交差点付近に保管されている。筆者は見ただけで無く良い勉強になりました。感謝！

なお、バスチーユ要塞はシャルル 5 世の城壁の一部であり、第 4 項で更に詳しく説明する。

2. 新しいパリの中世の市街図 ～バスチーユ要塞を調べる過程で新しい地図を入手した！ 出典や製作年などが不明だが、海外の WEB サイトで発見、32MB と大きく局部的な画像が見えるので、ある程度の年代を推定できると期待している。

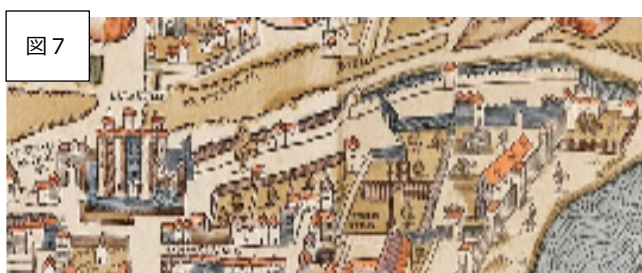


3. 製作年代の推定

前回のフランス城郭シリーズ 5 の図 9（1615 年の地図）と比較して、気が付くところは：

- ① 右岸では、シャルル 5 世（a1364-d1380）即位前の 1358 年から壁の建設にかかり、壁の周りには堀を巡らしてセーヌ川から水を引き込み要塞化した、そのままである。
- ② 大きな軍隊がパリを攻めてくる場合は、9 世紀のノルマン人のように緩やかに平野を流れてくるセーヌ川を利用する。右岸でセーヌ川に沿った西の護りは、フィリップ・オーギュストの頃からルーブル要塞があったが、東の護りが薄かったのでバスチーユ要塞が建設されている。→ 城壁、堀、バスチーユ要塞はシャルル 5 世の在位（a1364-d1380）の間に完成したと考える。
- ③ 約 130 年後に即位したレイ 12 世（b1462-a1498-d1515）が作った現・共和国広場から、市壁から離れながらも城郭を囲んでセーヌ川に至るルイ 12 世の堀は存在する。→（a1498-d1515）の間に建設されている。
- ④ 図 7 は図 6（仮称 Map-X）のバスチーユ要塞周辺で、図 8 はほぼ同じ付近の 1575 年の絵地図である。図 8 の堀には陵堡が突き出しており、城壁の上は兵士が移動する城塁 Rampert がある。

→ Map-X の作成時期の筆者の推定は、1515 年～1575 年 工事期間を考慮すると、1550 年頃である。



4. バスチーユ要塞

図9は、シャルル5世の城壁の平面図、AとBは既存、C～F新しいが新しい要塞部分

图 9



<説明>

A はルーヴル要塞後に宮殿

B はシテ島の王宮だが機能が低下して
ており、これに代わる東の要塞としてバ
スチーユが建設された。

C は練兵場、

D は城壁の通用門 Porte、

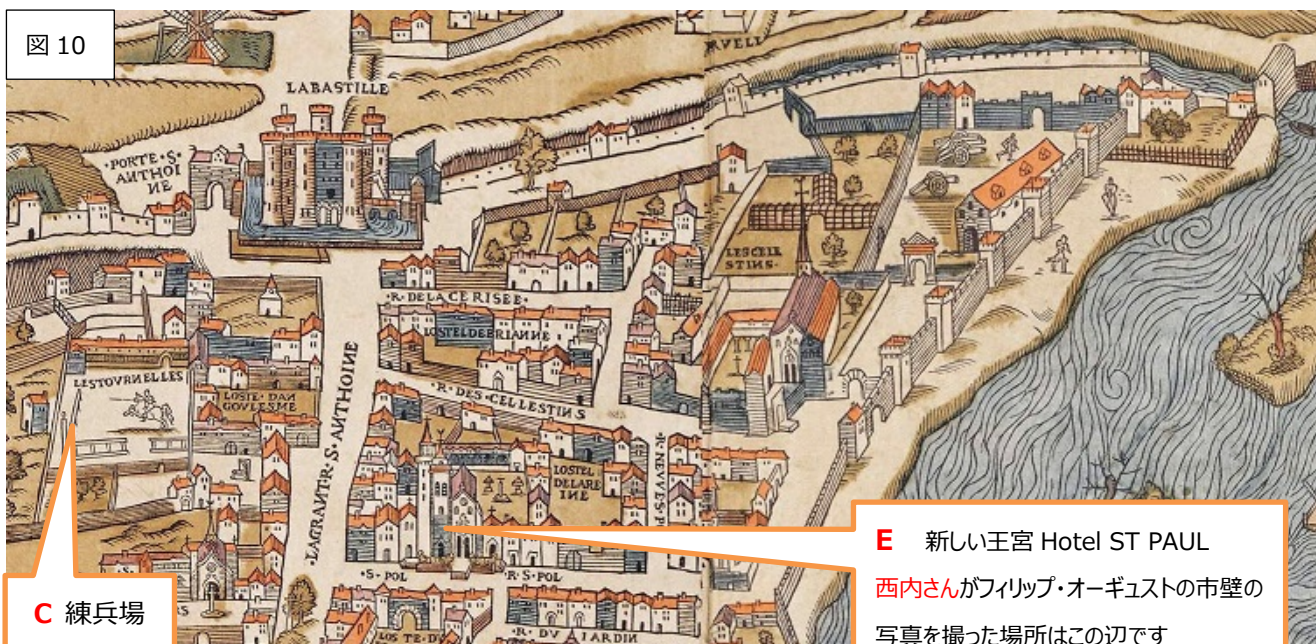
E は新しい王宮 Hotel ST

PAUL,Hotel は大貴族の邸宅や
市役所など

F はバスチーユ要塞

セーヌ川から堀に入るバリアがある

図 10

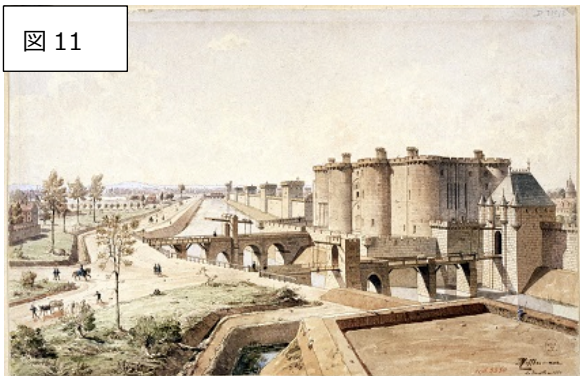


E 新しい王宮 Hotel ST PAUL

西内さんがフィリップ・オーギュストの市壁の
写真を撮った場所はこの辺です

以下は、建設当時から革命で破壊されるまでの変遷である

图 11



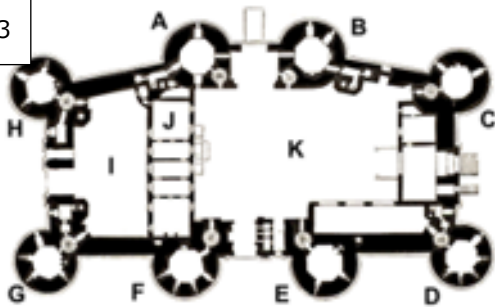
建設当初 1420 年頃

图 12



1715 年 ルイ 14 世時代に城門が拡張された

図 13



西内さんが撮影した石材は、塔 **F** の基礎部分で塔の名前は、Liberté Tower **自由の塔**

図 14

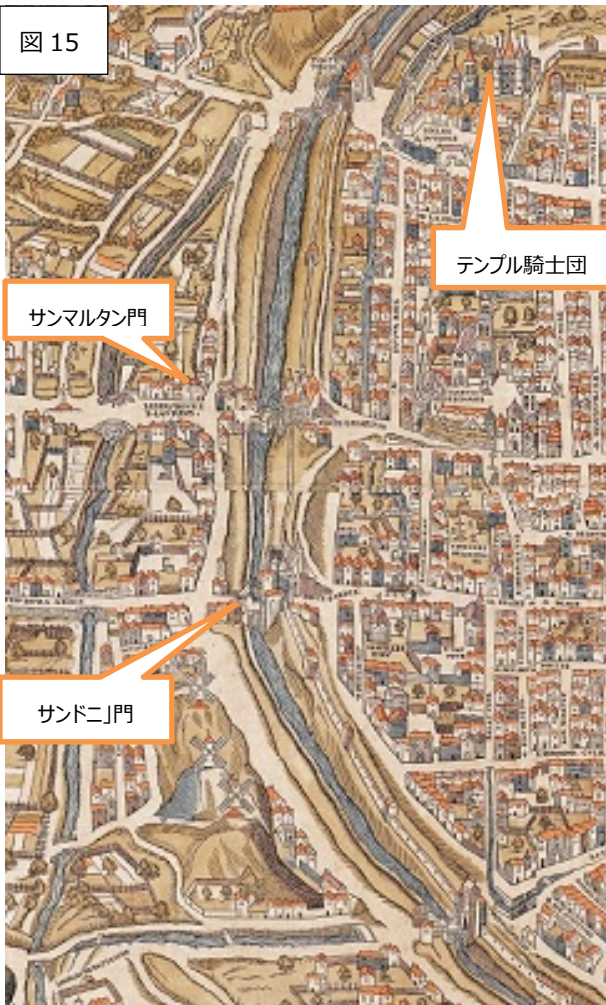


1789 年 7 月 14 日に民衆が襲撃して破壊した後の写真
7 月 14 日は革命記念日 日本では「パリ祭」

5. サンドニ門 Porte ST-Dnis と サンマルタン門 Porte ST-Martin

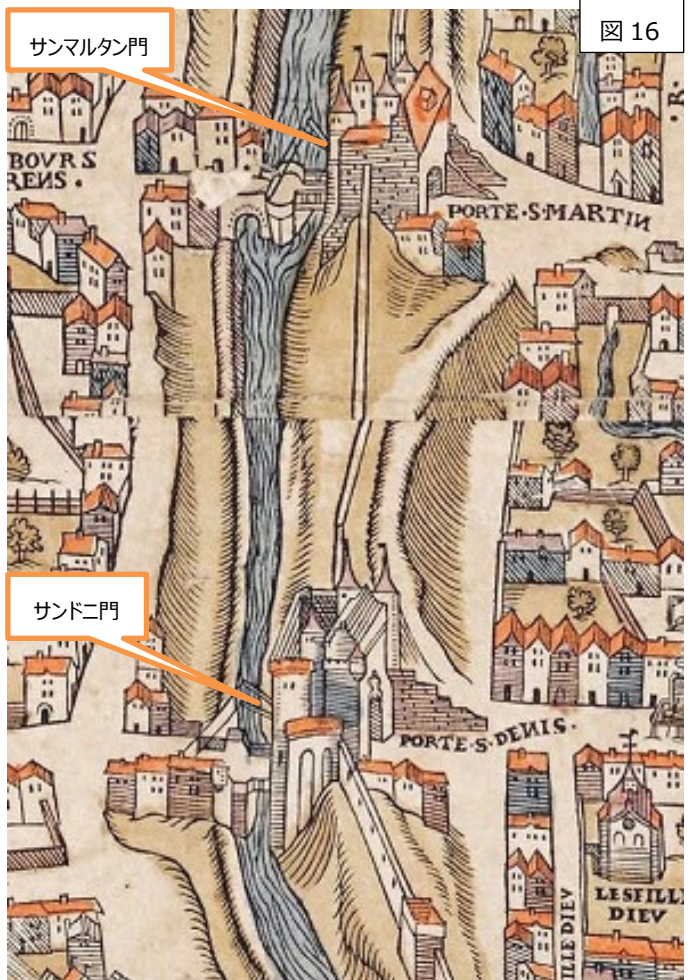
シャルル 5 世の市壁の 6 つの出入り門として 1358-1383 年に建設された。

図 15



サンマルタン門

図 16



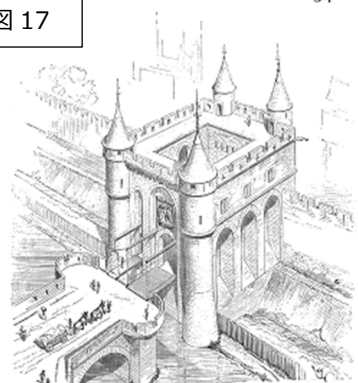
サンドニ門

地図は第 3 項で述べた Map-X で、筆者は 1550 年頃に制作されたと推定した。

規模は違うが、バスチーユと同じく、出入りのゲートと要塞の組み合わせで、いずれも外側に跳ね橋（つり上げ橋）があり、ワイヤーが描かれている。バスチーユの要塞には 8 本の塔があるが、他の要塞は図 17 のように 4 本の塔がそびえている。図 17 はフランス語のウキペディアに 14 世紀の建設当初のサンドニ門として掲載されている。

何か、100 年ほど古いほうが立派に見える・・・おかしい？

図 17



5. 二つの凱旋門

シャルル5世の城壁は、ルイ14世時代の1670年代に取り壊されたが、サン・ドニとサン・マルタンの二つの門(gateway)は、ルイ14世のフランドル地方とフランシュ・コンテ地方での戦勝を記念して凱旋門 (Archway) として建設された。



サン・ドニ凱旋門はライン川の数々の戦役でルイ14世の勝利の記念として、1671-74年にパリ市の費用で Nicolas François Blondel によって建てられたもの。南側面のレリーフは、ライン川渡河の様子とライン地方やオランダなど征服地のシンボリックな人物が描かれている。北側面は、ルイ14世がマーストリヒトの町を自分の支配下に置く様子が描かれている。歴代のフランス王の菩提寺であるサン・ドニ寺院での宗教行事に参加してパリに戻る時に通過した門である。

また1855年のパリ万博の時には英国のヴィクトリア女王が通過している。

百年戦争中の1436年に遡ると、ブルゴーニュ公国をサポートしていたイングランド軍がサン・ドニ門付近に侵入し住み着いていた。しかし、1437年にシャルル7世の軍がパリに進攻しはじめると、市民を含むフランス側が立ち上りイングランド軍を敗走させてシャルル7世はパリ入城を果たした。



サン・マルタン凱旋門

当時のパリ市長と市参事会がピエール・ビュレに依頼して造らせたもので 1674 年に完成された。ルイ 14 世の軍が**ブザンソン**の奪取とドイツ・オランダ・スペイン軍の敗北を記念して造られたもの。アーチの高さは 17 m, アーチの上の彫刻は、ブザンソン奪取とドイツ・オランダ・スペイン三国同盟の解体をあらわしています。

ブザンソンの城郭は**ヴォーバン**が設計・建設したもので、訪問したので次回に紹介する。



第 5 項の写真は筆者の撮影だが、余りよくない。以前、西内氏から頂いた事を思い出したので、添付する。

左がサンドニ凱旋門、右がサンマルタン凱旋門である、こちらの方が、カメラも腕もよいようです。



以上